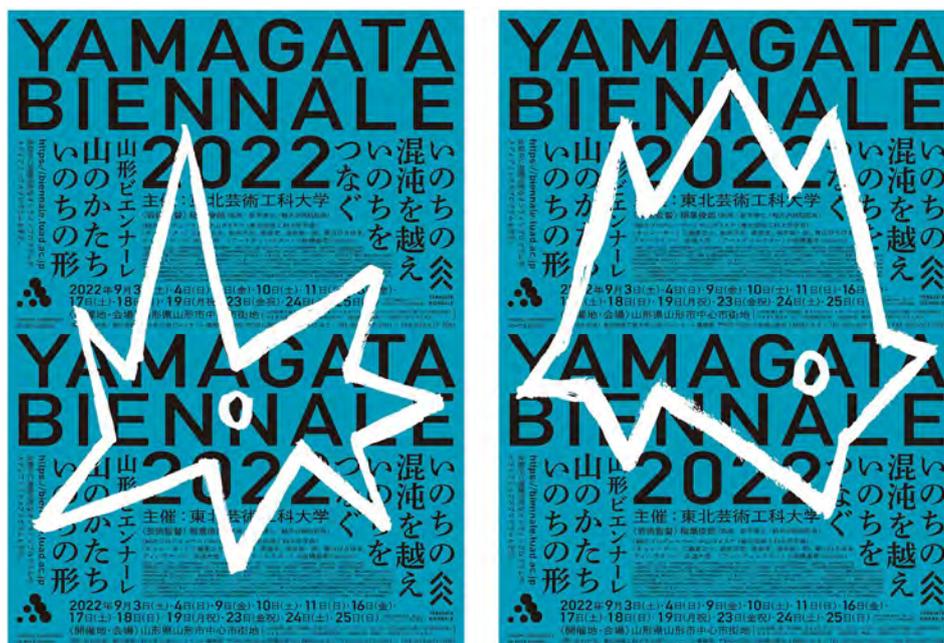

「みちのおくの芸術祭 山形ビエンナーレ 2022」いよいよ開幕!! 報道関係者向け記者発表会を9/2(金)に開催

東北芸術工科大学（山形市上桜田／学長：中山ダイスケ）が主催する「みちのおくの芸術祭 山形ビエンナーレ 2022」が、9月3日（土）に開幕します。

前回の2020年から芸術監督に就任した現役医師・稲葉俊郎氏のもと、「山のかたち、いのちの形《いのちの混沌を越え、いのちをつなぐ》」をテーマに、芸術やデザインの力を通して、「人と人とのつながり」や「心と身体の関係」など、これまで分断されてきたものをあらゆる文脈で「つなぐ」ことに挑戦します。



山形ビエンナーレ 2022 ポスター

開催に先立ちまして、**報道関係者様向けの記者発表会を9月2日（金）**に開催いたします。当日は、学長の中山ダイスケが開催概要や見どころなどについて、ヴィジュアルを交えてご説明いたします。ご多用とは存じますが、ぜひご取材賜りますようお願い申し上げます。

◎報道関係者向け記者発表会

開催日時：2022年9月2日（金）14時15分頃～（開学30周年記念展・内覧会終了後）

集合場所：東北芸術工科大学 本館6階 第1会議室

申込方法：別添の申込書をファックス、またはメールにて、入試広報課までお申し込みください。

Fax: 023-627-2154 Email: public@aga.tuad.ac.jp

申込締切：2022年8月31日（水）17:00まで

※別途ご案内しております「開学30周年記念展・内覧会」に引き続き行います。併せてご取材いただければ幸いです。

※ビエンナーレとは、2年に一度開催される芸術祭の意味です。

◎「みちのおくの芸術祭 山形ビエンナーレ 2022」開催概要

2/5 ページ

2014年に第1回を開催し、前回の2020年は、新型コロナウイルスの流行により多くの文化イベントが中止や延期となる中、「オンライン型」での開催を余儀なくされました。

しかし、この芸術祭の本来の姿を思い巡らすと、やはり多くみなさまに初秋の山形を訪れていただき、市街地を散歩しながらアートの体験をしていただきたと考え、様々な社会環境の変化に対応できるように、工夫を凝らして準備を進めています。

5回目を迎える今年の芸術祭では、山形市と本学が共同で整備を進めている「やまがたクリエイティブシティセンターQ1（旧山形まなび館）」を中心に、山形駅から文翔館を結ぶ動線上に多彩なプログラムを散りばめます。そして、この2年間で失われかけた「人と人のつながり」や「心と身体の関係」などに焦点を当てることで、街に住む人も訪れる人も誰もが元気になり、街全体が明るくなるような芸術祭を目指したいと考えています。

テーマ

山のかたち、いのちの形《いのちの混沌を越え、いのちをつなぐ》

開催地・会場

山形県山形市中心市街地・・・山形県郷土館「文翔館」、やまがたクリエイティブシティセンターQ1（山形私立第一小学校旧校舎）、やまぎん県民ホール、市街地商店街、リノベーション物件等

会期

2022年9月3日（土）～25日（日）＊一部の会場を除き、会期中の金・土・日・祝日のみ開催（12日間）

開催日：9月3日（土）・4日（日）・9日（金）・10日（土）・11日（日）・16日（金）・17日（土）・18日（日）・19日（月祝）・23日（金祝）・24日（土）・25日（日）

参加料等

無料／一部有料プログラムあり

◎山形ビエンナーレ 2022 の見どころ

「やまがたクリエイティブシティセンターQ1」が会場に！

創造都市やまがたの新たな拠点として9月にオープンするQ1（キューイチ）を会場に、複数のプロジェクトが多彩なプログラムを展開します。

【いのちの学校】「おくすりてちょう」をつくる（稲葉俊郎・須長檀）／FORMATA 地球外的で、活動的で、自発的な実体（ホアン・マヌエル・カストロ）など

【現代茶経一第1章】喫茶往来（望月重太朗、永岡大輔、井口和泉、平田尚也ほか）／山の上の陶器市：（うつわやみたす、田村一、樽見浩ほか）

【まちのおくゆき】ダンスパフォーマンス上演・トーク（砂連尾理、伊藤亜紗、分身ロボット OriHime パイロットさえ、岩中可南子ほか）

【美術の学校】各種クラフトワークショップ（坂井直樹、藤田謙、佐々木理一ほか）

【PINK PUBLIC PROJECT】インフォメーション、グッズ販売&展示（spoken words project ほか）

山形県郷土館「文翔館」の議場ホールに「藻が湖伝説」が出現！

会場を歴史的文化財や現代アート作品で埋め尽くし、現在の地名にも由来を残す村山盆地に伝わる「藻が湖（もがうみ）伝説」を再現します。

【現代山形考一藻が湖伝説】展示、トーク、演劇（青野文昭、大山頭、尾花賢一＋石倉敏明、ゲッコーパレード、東北画は可能か？、東北大学五十嵐太郎研究室ほか）

いつもの街に2,000本のロウソク絵画や巨大なチョークアートが出現。

50人の集団演劇や変化するメディアアートなど、屋外ならではの壮大なアートを展開します。

【屋根のない美術館】光の鳥、水の記憶、ニュー花笠音頭、移動美ギャラリー、舞台芸術集団エンジニア（吉田重信、来田広大、大脇理智、タノタイガ、屋代敏博ほか）

7つのプロジェクト

1. いのちの学校／土と人 キュレーター：岩井天志

『土と人』土を感じ、地球を想い、人と人が繋がり、健やかな生き方がうまれるフィールドをつくっていくコミュニティです。Q1のエントランス広場を会場に、植物性の食材（ヴィーガン）、オーガニック、フェアトレード、ゼロウェイストをコンセプトに山形、宮城を中心とした素晴らしいお店や生産者の方々が集います。

2. 現代山形考～藻が湖伝説～ キュレーター：三瀬夏之介

山形が海の下だったヤマガタダイカイギュウの時代から、ポストコロナの未来までを夢想し、ありえたかもしれない世界を創造するプロジェクト「現代山形考」が始まります。会場には歴史的文化財から現代アート作品までが所狭しと並びます。

3. 現代茶経 第1章／山の上の陶器市 キュレーター：深井聡一郎

8世紀唐の時代に書かれた「茶経」の現代版として「現代茶経」と題し、お茶にまつわるイベントを開催します。「現代茶経喫茶往来」は、毎週お茶の可能性を探る実験をゲストと行い、その様子を鑑賞いただけます。今回で3回目となる「山の上の陶器市」を開催し、その他にも関連企画として、隣接するショップでは茶道具を中心とした販売、スタジオアーティストたちによるオープンスタジオも開催します。東西を行き来したお茶の可能性を楽しみ、それにまつわる道具の魅力を実際に手に取り感じていただけます。

4. 屋根のない美術館—いのちの光— キュレーター：青山ひろゆき

いつもの街が歩行者天国の美術館に変わります。山形駅前「大手門通りすずらん商店街」の夜を舞台に、テラス席で飲食をとりながらアートを楽しめます。毎週入れ替わるアーティストによってライブアートや参加型のデジタルアート、演劇、映像、ワークショップほか移動式ギャラリーでの作品展示など、商店街の灯りとともにさまざまな表現が満喫できます。

5. まちのおくゆき キュレーター：アイハラケンジ

多様性の受容・調和などをテーマに、障害のある人や、さまざまな理由で生きづらさを抱える人などを含む、あらゆる市民がダンスパフォーマンスをはじめとした様々な協働を展開。多様性を受容しながら一人ひとりの「ゆたかさ」「しあわせ」に向き合う活動である「福祉」の現場とアートをつなぎ、異なる身体や感覚を持つ人々同士が他者について想像する活動を重ねていくプロジェクトを進めます。

6. 美術の学校 —つくる・つかう・あそぶ・かんがえる— キュレーター：安達大悟

「つくる」「つかう」「あそぶ」「かんがえる」の4つをキーワードに、やまぎん県民ホールと山形クリエイティブセンターQ1にて本格的な創作ワークショップを実施します。東北の地で「やってみたかった！」が味わえます。ぜひ遊びにきてください。

山形は、少子高齢化や若い人の流出、更にコロナで追い討ちをかけられ、人や街が停滞しています。2020年から「街と人」をテーマとしてアートプロジェクトを継続・発展させてきましたが、3年目となる今回のプロジェクトでは、山形の人々が街を元気に変えていくきっかけをつくる「変動計画」として、ダンスパフォーマンスを実施します。

=====

■運営体制

芸術監督：稲葉俊郎（医師・医学博士／軽井沢病院院長）

総合プロデューサー：中山ダイスケ（東北芸術工科大学学長）

ディレクター／キュレーター：三瀬夏之介、岩井天志、原高史、深井聡一郎、青山ひろゆき／アイハラケンジ、安達大悟ほか

アートディレクター：小板橋基希（株式会社アカオニ）

事務局：地域連携推進課

■主催

東北芸術工科大学

■後援

山形県、山形市、山形県教育委員会、山形市教育委員会

■助成

令和4年度 文化庁 大学における文化芸術推進事業、公益財団法人 朝日新聞文化財団、公益財団法人 花王芸術・科学財団、公益財団法人 カメイ社会教育振興財団（仙台市）、公益財団法人 野村財団、公益財団法人 文化財保護・芸術研究助成財団、公益財団法人 三菱UFJ信託地域文化財団

■協賛

愛和建设株式会社、株式会社きんでん東北支社、株式会社山形銀行、株式会社カキザキ山形国際ホテル、株式会社金入、菱機工業株式会社仙台支店、株式会社旅館古窯、株式会社ジョイン、有限会社東北環境総合サービス、富士フィルム BI 山形株式会社、株式会社山形銀行、山形パナソニック株式会社、株式会社山形ビルサービス、株式会社山本組、うるしやまタクシー株式会社、株式会社オーイシ、株式会社オカムラ、オビスアン株式会社、株式会社 KDDI エボルバ、株式会社財務サポート、医療法人社団清永会、株式会社丹野園茶舗、株式会社塚田会計事務所、株式会社トヨタレンタリース山形、日本地下水開発株式会社、ネッツトヨタ山形株式会社、株式会社羽田設計事務所、株式会社萬国屋、ファースト興産株式会社、富士フィルムビジネスイノベーションジャパン株式会社、株式会社ホリエ、株式会社本間利雄設計事務所、丸善雄松堂株式会社仙台支店、株式会社モス山形、山形いすゞ自動車株式会社、山形空港ビル株式会社、株式会社山形県観光物産会館、山形市農業協同組合、株式会社山形丸魚、株式会社山南自動車、リコージャパン株式会社マーケティング本部山形支社

■寄附

株式会社 IHI

■特別協力

公益財団法人山形県生涯学習文化財団、山形県総合文化芸術館指定管理者みんぐるやまがた、やまがたクリエイティブシティセンターQ1、大手門通り すずらん商店街振興組合

山形ビエンナーレ 2022 報道関係者向け記者発表会

参加申込書

FAX : 023-627-2081

※8月31日(水) 17:00 までにご返信ください

参加・不参加

御社名 _____

代表者氏名 _____

携帯番号 _____

メールアドレス _____ @ _____

参加人数 _____ (人)

